

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は堅調な推移が継続か

[8月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月10日～8月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	105.90	107.05(13)	105.71(10)	106.81	+0.89
ユーロ・ドル	1.1788	1.1864(13)	1.1711(12)	1.1817	+0.0030
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,289.36	+959.42	日本10年債利回り	0.048	+0.036
ダウ平均株価	27,896.72	+463.24	米10年債利回り	0.721	+0.157
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 17日 英8月ライトムーブ住宅価格
日本第2四半期国内総生産 (GDP) 1次速報
日本6月鉱工業生産指数確報値
米8月NY連銀製造業景気指数
米6月対米証券投資
- 18日 米7月住宅着工・建築許可件数
- 19日 NZ第2四半期生産者物価指数
日本7月貿易収支、日本6月機械受注高
英7月消費者物価指数、英7月生産者物価指数、英7月小売物価指数
ユーロ圏6月経常収支
ユーロ圏7月消費者物価指数
米MBA住宅ローン申請件数
カナダ7月消費者物価指数、カナダ6月卸売売上高
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録 (7月28～29日分)
- 20日 独7月生産者物価指数
米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数
米7月景気先行指数
- 21日 日本7月消費者物価指数
英7月小売売上高
仏8月製造業PMI速報値、仏8月非製造業PMI速報値
独8月製造業PMI速報値、独8月非製造業PMI速報値
ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月非製造業PMI速報値
英8月製造業PMI速報値、英8月非製造業PMI速報値
カナダ6月小売売上高
米7月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】ドル円は104円台前半まで売られた後に106円台半ばまで戻したものの、戻りの動きは限定的となっており、ドル全面安の流れは継続している。ただ、ドル円は大きく崩れにくくなっており、105円台を中心とするもみ合いが継続するとした。

【ドル円は堅調な地合いが続く】

ドル円は8月10日以降に上昇基調で推移しており、12日のNY市場では一時107円台に乗せた。上昇の背景には新型コロナウイルス対策のワクチン関連の報道が好感されて円売りに傾いたことなどがある。11日にはロシア政府が同国で開発されたワクチンを承認したとの報道が円売りの動きにつながった。12日にはトランプ米大統領が

バイオ製薬企業のモデルナのワクチンを1億回分購入すると発表したことなどがドル円の上昇につながった。

12日のニューヨーク市場では新型コロナウイルス対策のワクチンの実用化期待などが円売りの動きとなって、ドル円は一時107円台に乗せた。米国株はハイテク中心に買い戻された。ドル売りの動きに加えて、円売りの動きも出ていることで、ドル円は堅調な流れを見せている。13日は米30年物国債の入札が低調な結果となり、米債利回りが上昇して、ドル円の支援材料となった。ただ、107円台をしっかりと固めるには至っていない。

円売りによるドル円の上昇に歩調を合わせて、ユーロ円、ポンド円、豪ドル円などクロス円も堅調な流れを見せている。ユーロドルは1.17近辺まで下落した後に下げ渋り、ポンドドルは1.30超の水準でもみ合いが続いている。

例年、8月は円高に傾きやすい季節といわれている。ただ、この10年間ではドル円の月足が陰線（円高を示す）に振れたのは5回（50%）と中立水準となっている。過去20年では陰線になる確率が65%と円高に傾きやすかったものの、近年では円高バイアス（偏り）が薄れてきているようだ。今年の8月は米長期金利の上昇や米国株の堅調な動きを背景にドル円は底堅い動きを見せており、円高に傾くかどうかは不透明だ。

8月に入ってから米10年物国債利回りは低下が一服して、上昇傾向にある。ドル円の底堅い動きも米長期金利の上昇にサポートされている。ドル円は大きく上値を追うにはやや力不足ながらも、堅調な推移が継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、105.50～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に日本第2四半期国内総生産（GDP）1次速報、日本6月鉱工業生産指数確報値、米8月NY連銀製造業景気指数、米6月対米証券投資、18日に米7月住宅着工・建築許可件数、19日に日本7月貿易収支、日本6月機械受注高、米MBA住宅ローン申請件数、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録（7月28～29日分）、20日に米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数、米7月景気先行指数、21日に日本7月消費者物価指数、米7月中古住宅販売件数などがある。

【独仏ユーロ圏のPMI次第でユーロドルは一段高も】

ユーロドルは8月6日に1.1916まで上昇した後に修正安局面に転じた。テクニカル面での過熱感やドル売りの動きが続いたことで、ドルの買い戻しの動きが広がり、1.1711前後まで軟化した。ただ、1.17台前半では底堅い動きを見せて、再び上昇に転じている。新型コロナウイルス対策のワクチン実用化への期待感から米国株が堅調に推移しており、ドル売りの動きに傾いている。

ユーロドルは米国株やドル売りの行方に加えて、21日に発表されるフランス、ドイツ、ユーロ圏の製造業、非製造業の購買担当者景気指数（PMI）の値に大きく左右されそうだ。これらのPMIは新型コロナウイルスの感染拡大の影響で4月に大きく低下した後はいずれも上昇に転じており、好不況の境目となる50を回復している。この流れが継続するようなら、ユーロドルは一段高が期待できそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1750～1.2050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日に英8月ライトムーブ住宅価格、19日にNZ第2四半期生産者物価指数、英7月消費者物価指数、英7月生産者物価指数、英7月小売物価指数、ユーロ圏6月経常収支、ユーロ圏7月消費者物価指数、カナダ7月消費者物価指数、カナダ6月卸売売上高、20日に7月生産者物価指数、21日に英7月小売売上高、仏8月製造業PMI速報値、仏8月非製造業PMI速報値、独8月製造業PMI速報値、独8月非製造業PMI速報値、ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月非製造業PMI速報値、英8月製造業PMI速報値、英8月非製造業PMI速報値、カナダ6月小売売上高などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。